

2019年度 事業計画書

自：2019年4月 1日

至：2020年3月31日

当財団は、これまで研究助成とフォーラム・シンポジウム等開催助成を中心に、情報科学分野の研究活動に対し、過去23年にわたって累計 5億5345万円を助成してきました。本年もその方針を維持しつつ、助成事業を中心に置き、情報科学の振興を図り、学術の発展に寄与していく。

公益目的事業

公益目的事業1

助成事業

1. 研究に対する助成

大学等、公的研究機関などそれらに属する研究者が行う情報科学に関する研究に対し、次により研究費の助成を行う。

(1) 研究助成金額

予算総額 2,000万円

(2) 助成対象研究の募集及び選考

大学等、公的研究機関などそれらに属する研究者等から情報科学に関する適切な研究テーマを募集し、その中から選考委員会において研究助成対象者を選考する。

(3) 募集期間

2019年6月1日（土）～2019年8月31日（土）

決定は2019年11月中旬。

2. 国際会議、学術講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー、研究集会及び研修会の開催に対する助成

(1) フォーラム・シンポジウム等開催助成

予算総額 200万円

(2) 募集及び選考

国際会議、学術講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー、研究集会及び研修会を募集し選考する。

(3) 募集期間

2019年6月1日（土）～2019年8月31日（土）

決定は2019年11月上旬。

公益目的事業2

フォーラム等開催事業

1. 講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー研究集会及び研修会の開催

(ア)「ロボットシンポジウム2020名古屋」開催

2020年2月頃を目安に開催予定。

名古屋市、愛知県、(公財)人工知能研究振興財団等と共に継続的に共催し、主催者の一員として参画する。

予算 200万円

(イ)「第19回 Kフォーラム」開催

日時：2019年8月22日から24日開催予定 (2泊3日)

場所：ホテルアソシア高山リゾート

表題：ざっくばらんフォーラム「AIの地平を拓く」

予算 330万円(事前・事後事務経費全て含む)

【趣旨】

次頁を参照。

公益目的事業3

機関誌、論文集刊行及び啓蒙事業

1. 出版物の編集及び刊行等

- ・財団機関誌(K通信)を6月(No.45)と12月(No.46)に発行する。
- ・財団機関誌の配布及びホームページへの掲載などの啓蒙活動の実施。

その他

1. 公告・情報公開

情報公開や情報発信、機関誌の掲載などホームページの内容を充実させるなど、ホームページを活用した活動を行なう。

2. 特定費用準備資金

設立30周年に向け、記念事業実施のための積立を行なう。

計画は、5,000万円を積立。2019年度は500万円の積立。

3. 情報学シンポジウム後援

2019年度に開催予定の「情報学シンポジウム」を後援する。

後援費用は100万円で、法人会計 雑費とする。

【第19回Kフォーラム 趣旨】

“人工知能 (AI) が暮らしから経済まで様々な場面で活用されるようになってきた。「AI が仕事を奪う」との懸念も出るが、少子高齢化の日本で AI を活用しない手はない。”と、これはある新聞の元旦号の書き出しの1行です。AI が社会の役に立つと期待されているのだと思います。

この広がりを見せ始めた AI は、機械、エレクトロニクス、ロボット、身体、脳、生物、化学、物理、認知、心理、社会、哲学、人文、芸術、あるいはエンターテインメント、・・・と、人間を取り巻くあらゆる分野と関係を持ちながら、その地平が拓かれていくと思います。

いま AI への注目は、車の自動運転から、人のサイボーグ化、人の感情や感性に関わる技術まで、あらゆる分野に及びます。AI 技術の地平は何処まで広がるのでしょうか。

AI 技術の進歩に人はどのような対応が求められるのでしょうか。AI・ロボットと共生する社会のあり方が問われます。ネットに繋がった AI は、知識を蓄積し知能を拡大しどんどん知能を強化していくでしょう。汎用 AI 実現の声も聞こえ、AI の知能が人間を超えるという予想もあります。人間は人間が創り出した神に支配されたように、人間は人間が創り出した AI に支配される存在になるのでしょうか。AI には意識がありません。意識を持たない強大な知能が人間を支配することになるのでしょうか。人間 (ホモサピエンス) は、AI を操る能力を備えた一握りの人間と無用の大多数の人間の2つの階級に分断され、新しい種の誕生を意味することに繋がるのでしょうか。人はどこから来たのか、人はなにものか、人はどこへいくのか、の問いが突きつけられることとなります。

それとも、知能と意識が備わっている人間は、AI を、人が人らしく生きることを助ける存在にすることができるのでしょうか。そのためには技術の進歩と共に人はそれに応じて変わって行かねばならないでしょう。人を変えるのは教育を通してです。人が人らしく生きる社会に向けて教育は欠かすことができないでしょう。

10年ほど前に出版された「機械との競争」で、エリック・ブリニョルフソンとアンドリュー・マカフィーは、現在指数関数的に拡大進行中のコンピュータによる第3次産業革命の中で健全な経済活動を維持する対策の第一に教育を上げていています。さらに20年ほど以前に、当時ケンブリッジ大学チャーチル・カレッジのサー・ジョン・ボイド学長が、次のように述べているのを思い出します。「人が最初に選んだ職場で一生を過ごすということは、今後ますます難しくなるでしょう。個人の想像力、適応力を伸ばすため、教育に与えられた社会的責任はそれだけ重くなります。産業の高度化を主導するとともに、それに同伴していける人材をつくるという二重の責任を果たさねばなりません。努力を怠った場合の未来図を創造するだけに、恐ろしいものがあります。」

今、これから拓く AI の地平を見つめて、最先端で活躍されている研究者に集まっていたら、現在を知り未来を見つめ自由に討論を展開していただければと思います。

以上